

2023年 JIAS 日本国際美術家協会 臨時特集



世界に続け！

2023年、JIASも歩み続けます



JIAS 海外関連活動 フランスの公募サロンは大盛況



サロン・ドトース

Salon d'automne

PARIS

L'ARTISTE

EXPOSE

ル・サロン
Le Salon

サロン・ドトース 2022

主催：サロン・ドトース協会

2022年10月20日(木)～23日(日) *20日はベルニサージュ
ラ・ヴィレット グランド・ホール (パリ19区ラ・ヴィレット公園内)

6千m²の広大なラ・ヴィレットに会場を移した今回展。約千名の作品が集い来場者を迎えた。会長ルグラン氏の開会挨拶では、長きにわたり同協会特別賛助のもと開催する「日本・フランス現代美術世界展」をはじめ、歩みをとめないJIAS会員らへの賛辞と、更なる活躍を期待する言葉が述べられた。



ル・サロン 2022

主催：フランス芸術家協会（ル・サロン）

2022年2月16日(水)～20日(日) *15日はベルニサージュ
グランド・パレ・エフェメール (パリシャンド・マルス公園内)

長年の会場グラン・パレは24年パリ・オリンピックに向け改修工事に入り、グラン・パレ・エフェメールがその大役を継いだ。厳しい審査を通過した世界各国の作品が披露された会場には、会期を通じて約3万人もの来場者を迎えた。出品者より獅子堀開氏が銅賞を受賞。

アート
「芸術」が必要な いまこそ

今、世界はエネルギー不足、人口問題、食料問題、感染症の流行、インフレ、そして地球を脅かす深刻な環境問題など、様々な困難を抱えています。コロナ禍で変革を余儀なくされたものは生活様式だけに止まらず、芸術を創りだすこと、また芸術を鑑賞することさえも不要不急である、と芸術に携わる全てのアーティストにとって受け入れ難い要請も長らく続きました。そして、戦争という叡智ある人間が行うとは思えないことも起きています。

JIASは創設当初より理念として「民族・言語・宗教・環境の多様な価値観、流派の共存を互いに認め、国境・人種差別を越えた国際規模の活動により、世界無比の美術振興運動体であり続ける」と掲げ、単なる画一的な集団から脱した“国際的観点を持つ多様なジャンルの作家”を、絵画・書に留まらず幅広く対等に受け入れ続けています。世界規模で問題を抱える今こそ、人が人の心に直接訴える“アート作品”と“アート活動”がこれまで以上に重要であり、会員それぞれがアートでメッセージを伝え、アートが目指す目的を達成する事が必要だと感じています。

今回の JIAS 臨時特集号では、フランス画壇で実績を並べる評論家・美術関係者より JIAS 関連出品作品への多角的な観点による評価を、上位入賞作品への評価を通じ公表します。今後、皆さまがアーティストとしての才を更に磨き、創作意欲への刺激、創造性開花の一助になればと願います。

行動制限の緩和により以前のように世界を身近に感じられつつある中で、かつての常識や経済システムは転換期に来ているのかもしれません。しかし我々 JIAS は、アーティストが待ち望む『発表の場』を自ら作り、その手を止めることなく表現を発信し続けて欲しいと願います。

アートを愛し、芸術を創造する芸術家こそが、世界を豊かにつなぐと固く信じて。

ジャン・マリ・ザッキ

日本・フランス現代美術世界展
仮側運営委員長
JIAS名誉顧問 ル・サロン名誉会長



馬郡 文平

JIAS日本国際美術家協会代表
欧州美術クラブ代表



2022年 JIAS 総会・JIAS 関連イベントの各種報告

2022年 JIAS日本国際美術家協会 総会

2022年8月11日(木) 国立新美術館講堂

JIAS主催「日本・フランス現代美術世界展」初日、3年ぶりとなる総会が開催された。あいにくコロナ第7波の最中ではあったものの十分な予防対策を施した会場に、全国から31名が集い、再会を喜ぶ和やかな雰囲気の中、すべての議題は拍手を持って承認された。

代表の馬郡より「協会は、信念を持ったそれぞれの会員同士が刺激し合い、研鑽しながら、自作品と向き合い、高みを目指すもの。JIASは、国内のみならず海外作家とも研鑽を可能にし、各作家へ帰還する。創造の苦悩や、評価への喜びなど分かち合える場もある。種別も年齢も、上下関係も存在しない。ぜひ会を活用し、創作と交流を楽しんで欲しい。」と伝えられた。



人数制限、十分に距離を開けた座席など予防対策を施した総会風景



議長 船田春光氏、副議 別府忠雄氏



3年ぶりの会員顔合わせ

表彰式 2022年 JIAS関連展

2022年8月11日(木) 国立新美術館講堂



前年度関連展覧会の入賞者へ《表彰式》を開催。3年ぶりの式典には本展仏側名誉会長のザッキ氏から入賞作家たちへ向けられたビデオメッセージを上映。代表馬郡文平及び、協賛会社より入賞者に賞状等が授与された。

オンライン広報活動

JIASホームページ及びJIAS公式Facebookでの広報



JIAS関連展覧会に出品された会員作品を、公式Facebookにて紹介。
「会員個々の活動報告」HPでも個展等活動を告知・広報。会員は積極的に利用していただきたい。

第23回日本・フランス現代美術世界 2022 ~サロン・ドトース特別協賛~

会期:2022年8月11日(木)~21日(日) 国立新美術館3A3B

JIAS会員をはじめ、日本国内を中心に活躍する作家253名408点に加え、フランスサロン作家を中心とした海外作家約100点の総数506点が集結。フランス、オランダ、アメリカ、中国など多国籍の現役作家ら作品も集い、日本にいながらにしての国際展として好評を博した。独創性に富んだ多種別による日本現代アートは、会期中約6,000人の来場者を迎えた。



作品募集中！



第24回日本・フランス現代美術世界 2023

特別協賛: サロン・ドトース

会期: 2023年8月10日(木)~20日(日) 国立新美術館3A3B

主催: JIAS日本国際美術家協会 特別協賛: サロン・ドトース

公募締切
5/10 (水)

応募の際は必ず
規約をご参照ください



前年度の展覧会報告・展示風景はホームページよりご覧いただけます

2022年 JIAS 関連展覧会 上位入賞作品

審査関係者コメントを紹介

関連展の上位入賞作品を紹介します。その他優秀賞など多くの受賞作品は、ホームページよりご覧いただけます

第23回日本・フランス現代美術世界展

大賞

富美 七朗 「カーニバル」 アクリル 100.0×80.3



多様なテクスチャーの使い方が素晴らしい作品。
絵肌に一步近づけば、その起伏に富んだマチエールが魅せる、様々な表情に驚かされる。
荒々しさ、光沢、滑らかさなど、削られ塗り重ねられた作家独自の卓越した技術により、カーニバルを表現したこの作品は、彫刻的な美しさにも満ちている。
構図・色合いも完璧な、完全に他者を寄せつけぬ、突き抜けた個性と作家の世界観に賛辞を贈る

準大賞

べい 米翔

「パンデミックー差し出された手」

顔料インク 59.0 × 78.0



社会現象に対する思いが風刺された、テーマ性のある作品。緻密に重ねられた点描から生み出された明暗から、作家が創り出した個性を明確にしている。人物のマスク姿、ウイルスに涙する犬など構図・テーマ性が強く印象に残る。

準大賞

高梨 美幸

「北の森の譜 ～森まで5分～」

テンペラ、油彩、ミクストメディア 91.0 × 91.0



草木や森、水など自然を連想させる情景と女性から物語性を感じる嬉しい作品。淡い色合いの中に個性的で独特的のポエティックな世界を表現している。暗色を用いているが、何故かどこか明るく前向きな印象を受ける。

サロン・ドトーヌ賞

安 東淑

「COLD WIND (コガラシ)」

染色、シルクスクリーン版画 180.0×100.0



深い濃藍色のベースが、鮮やかな黄・水色の季節感を上手く閉じ込めている。染色による表現のみで巧みに構成された構図はふたつとない形態。突出した個性であり、熟練された技巧と表現である。

サロン・ドトーヌ賞

瀬野 清

「自己を見つめて (5)《叫び》」

油彩 91.0×91.0



作家の「自己」を強烈に表現したテーマ性の強い作品。彩り豊かな光と影が写し出す独自の色使いが秀逸。力強い目や表情のみで作品を構成し、内面から湧き出るパワーを表現。完全な世界観を確立している。

パリ国際サロン賞

元心

「登竜門」

工芸・焼き絵 100.0×80.0



皮の焼き加減で細やかな濃淡を表現。日本らしい絵柄を独特な構図により、険しい滻を昇るパワフルな鯉を描いた。何よりそれぞれの鯉の表情が素晴らしい。

パリ国際サロン賞

横山 弥生

「Days gone by #2」

CG、ミクストメディア 85.0×85.0



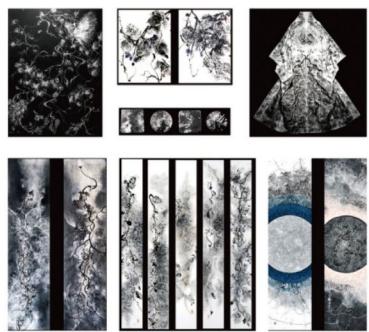
作家のオリジナリティは確実に明確で、まるで音楽のよう。高度なCGで重ねられた女性とモチーフが融合し、卓越した技術が知的に達成している。来館者が必ず立ち止まっていた、独特かつ個性的な作品。

エスパス・プリヴェ賞

上野 黄陽

「三世諸仏」

墨画 116.0×96.0 他6点



シンプルな白と黒が織りなす複雑で美しい墨画は、大胆でありながら繊細。それぞれが自由で個性溢れる作品群は、融合することでより強い一貫性のある表現となり、観る者に鮮烈なインパクトを与えた。

新エコールドパリ浮世・絵 (NEPU) 賞



篠原 文子
「赤と黒の大山」
油彩 100.0×80.3

赤と黒の山は一つの抽象画のようで、日本独自の色合いが美しい。広大な空間に光を当てた雄大なモチーフに反する繊細な表現力が素晴らしい。



躍動感あふれる古代文字が、バランスよく調和し、飛動する麦、米、が麁というテーマを表現している。作家は歴史の奥底から語り掛ける古代文字を純粋な現代表現に蘇らせている。



船田 春光
「La Prière (祈り) III ~Trois sœurs~」
装芸画 80.00×100.0

伝説上の天女を布と表装の技術で美しく表現。シンプルな素材ゆえに、優れた色使い、構図がより引き立ち、この世のものではない美しい女性を仕上げている。



第35回 パリ国際サロン 2022

2022年4月14日(木)～17日(日) パリ エスパス・コミニヌ/ギャラリー・デュ・マレ

日本作品143名242点の作品が2会場を華々しく彩った。ベルニサージュには会長ザッキ氏、ドトース会長ルグラン氏、ル・サロン会長マドレーヌ氏らを筆頭とするサロンの重鎮作家、美術関係者ら多数が駆け付け、作品を前にまさに“サロン”の如く熱く美術談義を交わした。会場には多くの愛好家や来場者が訪れ、日本作品に多くの驚きと発見を楽しむ姿が見られた。



大賞

渡部 昇

「Street that smokes in the rain」

ダンボールにアクリル絵画 72.8×103.0

描写力、構図バランス、陰影、濃淡の表現、独創性がいずれも優れた作品。ギャラリー顧客や一般観覧者からも人気と話題を集めた。確かなデッサンで表現されたその情景は、人々の思い出に働きかけ、既に忘れ去ったものを呼び起こさせてくれる。建築的構造と車や看板などの明暗が動きを創出する繊細な表現力が秀逸である。

ザッキ賞

青山 繁

「雨上がりの池」

油彩 65.4×80.3



我が物顔で池を泳ぐ鯉の様、水面に広がる波紋、蓮の葉。そして、藻を描くことで水中の透明性をも表現する卓越した画力が、素晴らしい。

ロワリエ賞

片野 栄子

「阿賀三川 細越集落 春はもうすぐ」

版画 56.0×42.4



遠景から近景までを流れるような構成で表現し、日本の里山雪景色の特徴をとらえている。同系色で繊細な色調を版画で描写する技術・表現力は見事としか言いようがない。

ギャラリー・デュ・マレ賞

坂本 澄子

「月の贈り物」

アクリルガッシュ 72.7×91.0



和桜を中心とした、月光を伴う宇宙空間は、郷愁的かつ近未来的であり緻密な技巧でモチーフを描写している。優れたファンタジー性に老若男女が醉いしれる。

ユニペール・デザール賞

獅子堀 開

「リアルト橋のたもと」

水墨 60.6×72.7



墨の特性を巧みに扱い、モノクロ表現で船や水面、背景の建物を純粹に表現する社実力が見事、純粹な墨の線で表現された水面の輝きは素晴らしい。

ドローイング大賞

安井 明美

「姥百合」

水彩 71.5×50.5



優れた色彩感覚と写実力で黒と姥百合を表現した、個性的なコントラスト・バランスが目覚ましい。

新エコールドパリ浮世・絵 (NEPU) 賞

瀬野 清

「大根の花束と少女」

油彩 92.2×81.6



花畠に抱かれているかのような温かい画面。穏やかな表情の少女と、その心情が巧妙に描かれている。独創的なタッチによる見事な表現力。

杉本 秀子

「須山の大島桜」

油彩 80.3×100.0



中心の桜の大樹だけでなく、その桜が生き続けてきた原風景をノスタルジックに描く、クラシックな主題かつ正当な作品。ギャラリー顧客ほか一般観覧者からも好評。



TOKYO世界展—ランブイエ2022— 特別協賛:サロン・ドトース

2022年7月19日(火)～24日(日) フランス ランブイエ市 パトノートル会場

東京から発信する「日本・フランス現代美術世界展」初の“国際巡回展”として、記念すべき第1回展をランブイエ市にて開催。コロナ禍にも関わらず意欲溢れる作家らの新作をあわせ、国際色豊かな257点が一堂に会した。オープニングには、市長はじめ多くの作家・関係者が集い、イル=ド=フランス圏から多くの観覧客を集めた。



大賞

大波 天久

「夕陽輝く集落の里」

墨象 90.9×116.7

墨流しによる技法を用い、墨と彩墨のみで生み出された美しいコントラスト、色彩のハーモニーが実に素晴らしい。完全に確立された構図の中には、写実性と抽象性が見事に融合する。夕日輝く里山の情景は、あえて間引かれた余白の余韻により、作家の変わらぬ故郷への想いを観るものに伝える。他の追随を許さぬ作家の独創性、技術・表現力に注目したい。

準大賞

益村 司
「舞楽蘭陵王」
アクリル 91.0×72.7



画面から溢れ出す躍動感、見るも鮮やかな色彩が異彩を放つ。古来より伝承の舞楽を作家独自の視点で現代的で、大胆かつ繊細に表現。

準大賞

高橋 美香子
「眠る思い出」
ミクストメディア 73.0×91.0



作家が創り出す青の世界。幾重にも重ねられた奥深いマチエールのハーモニーは、心象的な魅力に満ち、まるで海の中にいるような優しさを感じる。

ランブイエ賞

出村 陽子
「広島県 鞆の浦の町並み」
刺繡 44.0×59.0 他3点



東洋の手仕事による繊細な刺繡を前に、誰もが釘付けとなった。見事な構図とそれを表現する技巧力。何よりも4作品から放たれる作家の創意に称賛を贈る。

パリ国際サロン賞

香川 龍也
「栄華の名残り」
鉛筆画 42.8×63.7



画面手前に大胆に立ちはだかるアーチの構図は個性に溢れ、高いデッサン力と濃淡のみで表現された情景に、次作への期待が高まる。

パリ国際サロン賞

上田 久世
「蝶のファンタジア」
工芸・アクリル・佐賀錦(織) 65.0×91.0



艶やかな色彩と独創性に溢れた構図。それらを膨大な手間を要する伝統工芸織の技法で表現する精神は、作家独自の類まれぬ素晴らしい個性と才能である。

第2回展 開催決定!

TOKYO世界展-パリ2023-

特別協賛:サロン・ドトース

2023年5月 今年はパリの中心、パティーユで開催します



第36回パリ国際サロン 2023

2023年は2月開催!
人気のアートスポット マレ地区の2ギャラリーで開催



開催情報発信中!
パリ国際サロン
公式アカウントをチェック



2023年JIAS活動予定

主なJIAS関連の活動予定年間スケジュールです。展覧会開催時には、SNSやホームページを活用し、リアルな現地情報をお届け致します。会員各位の積極的な応募・参加をお待ちしております。

第36回パリ国際サロン／ドローイング・版画コンクール

会期:2023年2月9日(木)～12日(日)予定

会場:パリ市3区 エスパス・コミニヌ

ル・サロン 2023 (主催:フランス芸術家協会)

会期:2023年2月14日(火)～2月19日(日)

*2月14日(火)はベルニサージュ

会場:パリ市 グラン・パレ・エフェメール

2024年展 応募締切 2023年4/20(木)

第2回TOKYO世界展 -パリ2023-

会期:2023年5月18日～5月21日

会場:パリ市 バスティーユ・デザインセンター

第24回日本・フランス現代美術世界展 2023

会期:2023年8月10日(木)～8月20日(日)

会場:東京・国立新美術館3A・3B展示室

応募締切 2023年5/10(水)

サロン・ドトーヌ 2023 (主催:サロン・ドトーヌ協会)

会期:2023年秋冬季予定

開場:ラ・ヴィレットグランド・ホール

2023年展 応募締切 2023年2/21(火)

会員個々の活動報告

会員の活動をホームページ、Facebookなどでも広報しています。個展やグループ展などのご予定がありましたら、お気軽に事務局までお伝えください。

2024年

●熊本サロン・ドトーヌ会員三人展

藏元朝美/山口輝也/木村登美子

会期:2023年1月10日(火)～1月25日(水)

会場:ギャラリーキムラ

2023年

●塙江義宏 小畑敦子 2人展

会期:2022年11月24日(木)～11月29日(火)

会場:宝塚市立文化芸術センター(兵庫県)

●高梨美幸小品展 Small piece of work

会期:2022年10月26日(水)～10月30日(日)

会場:ギャラリーメゾンドネコ(東京都)

●大西英子「え」展Vol.2

会期:2022年9月15日(木)～9月20日(火)

会場:ギャラリー高橋川中島(長野県)

●倉田タカユキ作品展

会期:2022年8月10日(水)～8月15日(月)

会場:ギャラリーMTSUぼつぐり(長野県)

会員個々の活動報告

●井口直也作品展 ~水辺に魅せられて~

会期:2022年6月12日(日)～7月2日(土)

会場:The British Wine And Tea Shop(沖縄県)

●小野功夫・長谷彰朗 二人展

会期:2022年4月24日(日)～5月7日(土)

会場:アートスペースYOU(京都府)

●大久保信子 洋画特集

会期:2022年2月13日(日)

会場:福山ニューキャッスルホテル3階「光耀の間」

会期:2022年2月16日(水)～2月21日(月)

会場:福山天満屋6階美術画廊 有望作家展

●上原正治展

会期:2022年2月1日(火)～2月7日(月)

会場:coll e by都画廊

2023年JIAS新会員ようこそ! JIASへ



伴 直子



風らい坊



葉山 澄子



加藤 篤弘



加藤 由利子



河内 美穂



来生 垣子



Kyoko Baaba



中地 高子



太田 りかこ



鈴木 美登里



安原 智代呼



吉田 有美子

2023年JIAS会員に入会された13名の新会員です。
どうぞ宜しくお願いします。

その他 お知らせ

●2023年度JIAS定時総会は、8月上旬開催を予定しています。
詳細は6月頃お届けいたします。

●会員の皆さまのご友人・知人・ご家族など、本展に興味を持っている、または興味をもっていただけそうな作家さまをご紹介ください。協会より展覧会、公募展資料をご希望の場所にお届けします。

●東日本大震災被災地支援チャリティー「陸前高田の絵の好きなこども達へ画材を贈るプロジェクト」ご支援をお待ちしております。

【陸前高田の絵の好きなこどもたちに画材を送るプロジェクト】
銀行振込・郵便振替・現金書留にて受付けております

★銀行振込 ●みずほ銀行 日本橋支店

普)1634027 口座名 欧州美術クラブ

●三菱UFJ銀行 日本橋支店

普)0128429 口座名 欧州美術クラブ

★郵便振替 記号)10100(番号)77876481 欧州美術クラブ

★現金書留:欧洲美術クラブ「陸前高田の絵の好きなこどもたちに画材を送るプロジェクト」係宛